

NGU 教養スタンダード

NGU 教養スタンダード

本学のカリキュラムの特色のひとつとして、どの学部の学生でも学べる《NGU 教養スタンダード科目》を開設しています。《NGU 教養スタンダード科目》は、現代社会で生きていくために必要な知識と技術をしっかり身につけ、専門知識だけに偏らない豊かな人間性を育てるために、次のような3つの目標を掲げて、カリキュラムを編成しています。

- キリスト教主義にもとづいた豊かな人格の形成
- 社会生活に必要な知識や技術の修得
- 成熟した市民として必要な教養の養成

NGU 教養スタンダード科目の構成

キリスト教に関する科目

＜キリスト教＞に関する科目は、キリスト教主義大学である本学の核心です。必修科目の「キリスト教概説1」「キリスト教概説2」では、世界の文明に大きな役割を果たしたキリスト教を、人間、歴史、社会、生命などとの関わりにおいて考え、世界に通用するしっかりとした人間観・世界観を築く足がかりとします。

自己理解と自己開発に関する科目

1年生の必修科目である「基礎セミナー」では、少人数クラスで「大学で学ぶことの意義」について理解し、有意義な大学生生活を送る足がかりを形成することを目的としています。さらに、大学での学びを促進させるスキルの習得をめざして、授業を受ける技術、プレゼンテーションの技法、情報検索の方法など、2年次以上のゼミナール活動の基本となるスキルについて学ぶことを目標としています。また、「キャリアデザイン 1a～2b」などの科目を配置して、「将来なりたい自分とは何か」についてしっかりしたイメージを養うとともに、職業を考え将来のキャリアを設計するための足がかりとします。

情報に関する科目

高度情報化社会の要請に応えるため、数理・データサイエンス・AI教育の充実が、本学の情報教育の特色です。1年次の「情報処理リテラシー（必修科目）」では、全学生に配付したノートパソコンを使って情報処理の基礎知識と基本スキルを学修します。また、「データサイエンスリテラシー」「データサイエンス概論」「AI概論」「情報処理論」などでは、数理・データサイエンス・AIの基礎知識と様々な応用法、並びに近年のデータサイエンス分野の動向などを学修します。

言語とコミュニケーションに関する科目

外国語については、「英語」を必修として学ぶほか、「ドイツ語」、「フランス語」、「スペイン語」、「中国語」、「韓国語」を学ぶことができます（学部によっては履修できない外国語もあります）。また、「日本語表現」を必修として学び、日本語表現法関連科目を学修することができます。

社会的教養に関する科目

自分で考える力を養い、深みのある人間性を身につけるためには、一般教養の修得が欠かせません。本学では、＜歴史・文化＞、＜社会＞、＜自然・人間・生命＞、＜地域＞の4区分の学修を通じて、適切な教養の修得を目指します。

教職に関する科目

ここに配置されている科目は教員免許取得をめざして教職課程に加入している者だけが受講できる科目です。実際に教員免許を取得するためには、教職課程履修規程にもとづき、この領域の科目に加えて、その他の指定された科目を履修する必要があります。

地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）

大学 COC 事業に関する 4 年間の学修

文部科学省は「地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）」を通じて、全学的に地域と連携した教育・研究・社会貢献に取り組む大学を支援しています。2013 年 8 月、名古屋学院大学は同事業に採択され、学生のみなさんが地域のことに興味関心を抱き、学修意欲を高められるカリキュラムを充実させました。これにより、企業が必要とする「社会人基礎力」が高まり、4 年後の就職にも有利となることをめざしています。

※ COC は「Center of Community」の略で、「地域再生の核となる大学」という意味です。

学生のみなさんは、下図に示すカリキュラムにより、行政や地域（住民・企業・団体）とも連携・協力しながら学修を進めていきます。これらの授業においては、教室内の学修はもちろんですが、学外でのイベントやフィールドワークに参加する場合があります

COC に関するカリキュラムの流れ

カリキュラム	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
① 教育イベント「まちづくり提言コンペ」				
② 課題解決型授業（PBL）				
③ 地域志向型科目（各学部専門科目）				
④ 教育イベント「地域フォーラム」				

- ① 全学生が参加する **1 年生の教育イベント**として、「基礎セミナー」において、名古屋市熱田区または瀬戸市にかかわる「まちづくり提言コンペ」を実施します。
- ② **課題解決型学習（PBL）**として、全学共通の《NGU 教養スタンダード科目》において、地域商業・減災福祉に関する「まちづくり学」「まちづくり演習」を開講するとともに、希望者は「上級まちづくり演習」（減災福祉のみ）で継続受講することも可能です。
- ③ 各学部の専門科目において、地域を学修対象とした**地域志向型科目**を開講しています。
- ④ 全学生が参加する **3・4 年の教育イベント**として、「演習」での課題研究の成果などを地域の方向けに発表する「**地域フォーラム**」を実施します。専門科目としての演習科目やゼミなどで学修・研究した成果を広く地域へ発信します。

初級まちづくりマイスター

まちづくり分野（地域商業・減災福祉）で開講している「まちづくり学」「まちづくり演習」科目の両方を履修し単位修得した学生に対し、「初級まちづくりマイスター」を認定します。

上級まちづくりマイスター

初級まちづくりマイスターを認定された者のうち、「上級まちづくり演習」を履修し単位修得すること、かつ公的な社会的活動に従事したり公的資格の取得をした学生を対象に、「上級まちづくりマイスター」を認定します。

経済学部 経済学科

教育目標（学則第3条の2より）

経済学科は、経済の理論と実習を学び、社会で起きている様々な現象を読み解く力を涵養し、地域社会やビジネスに貢献できる国際感覚豊かな経済人の育成を教育目標とする。

ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

経済学部所属する学生は、学部のカリキュラムを履修、学修することをおして、以下の能力獲得が求められる。これにあわせて、卒業に必要とされる所定の単位と要件を満たした学生には学士（経済学）の学位が授与される。

知識・技能

- 1) 経済社会が抱えるさまざまな課題に対する関心と問題意識をもつことができる。
- 2) 経済学の基礎的専門知識や分析ツールを使いこなすことができる。
- 3) 文献資料やデータを収集し、適切に処理することができる。

思考力・判断力・表現力

- 1) 社会を洞察するための論理的思考力をつけ、因果関係の把握や費用便益の比較考量ができる。
- 2) 政治や法とのつながりを理解し、経済社会を多面的に捉えることができる。
- 3) 自らの意見・考えを他者に的確に伝え、コミュニケーション・議論の中で自らの改善に活かすことができる。
- 4) よき経済人としての倫理観に基づいて、経済社会のあり方やそこでの望ましい行動を思考し判断できる。

主体性・多様性・協働性

- 1) 経済社会の課題を自ら発見し、課題解決に向けて経済学を基盤とした知識を応用することができる。
- 2) 経済社会における個人や文化の多様性について理解を深めて尊重することができる。
- 3) すすんで他者と協働して、経済社会の問題解決に向けて行動することができる。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

経済学部では、ディプロマ・ポリシーが示す能力獲得を目的として、次のような教育内容、教育方法、学修成果の評価についての方針を掲げ、カリキュラム編成と授業実施をおこなう。カリキュラムの体系性、各授業科目とディプロマ・ポリシーの対応関係についてはカリキュラムマップなどで明示する。

教育内容

- 1) カリキュラムは、成熟した市民として必要な教養の涵養をめざし、専門知識だけに偏らない豊かな人間性を育てることを目的として《NGU 教養スタンダード科目》の学修をおこない、経済社会で生きていくために必要な知識と技術を身につけるため、経済学部の専門科目である《基幹科目》、《展開科目》、《関連科目》を学修する。

- 2) 《基幹科目》においては、経済理論の基礎を修得させる「ミクロ経済学入門」「マクロ経済学入門」(いずれも必修科目)を配置し、教室での講義だけでなく、CCS内の自学自習システムや動画視聴による学習を予習復習に活用した反転授業をおこなう。また、2～4年次には小規模クラスによるゼミナール(すべて必修科目)を配置する。
- 3) 《展開科目》においては、経済学のより専門性の高い科目のみならず、政治学や法学を含んだ多様な科目を設置する。個々の学生は、4つの教育トラックを参考にして【経済理論と情報】、【応用経済と経済政策】、【各国経済と歴史】、【法制度と公共政策】の4つの領域から自由に選択する。各教育トラックは、在学中の学修とキャリア(出口)との関連を意識させることを意図して設定する。また、体系的・系統的な学修を促すため、科目のきめ細やかな学年配当をおこない、教育トラックに沿った科目履修をサポートする。
- 4) 《関連科目》においては、「企業研究1・2」のように現場見学をとおして理論と実際との関連づけをおこなう科目や、「企業連携演習」のように、企業の課題解決に実際に取り組むことによって、ビジネスを展開していく上で必要な実践的なスキルや能力を養う科目群、加えて数多くの提携大学での留学を前提とした国際理解科目群を配置する。

教育方法

- 1) カリキュラム全体をとおして、学生の主体的な学修を促進するために、グループ・ディスカッションなどに取り組む学生参加型授業、フィールドワーク、大学を越えたゼミの交流(インターゼミ)をはじめとしたアクティブ・ラーニングを積極的に展開するよう努める。
- 2) 本学が独自に開発してきたCCS(キャンパス・コミュニケーション・サービス)に加えて、時間・場所問わずにアクセスできるデジタル教材(基礎・発展問題、講義・解説動画、電子ブック等)を用意する。これらの教材は適宜、各科目において双方向型授業や反転授業に積極活用され、ICTを最大限に有効活用した教育が展開される。
- 3) 日本の中心に位置し、世界のものづくりを支える名古屋という地理的特性を踏まえ、特に専門科目において、世界から地域を、地域から世界を理解する能力を育てるための科目を充実させるよう努める。
- 4) 学年次に合わせた学生・教員全員参加の教育イベントと現場重視の調査・分析・提案をおこなう課題解決型授業(PBL)を組み合わせる段階発展型カリキュラムの趣旨を活かした科目の設置や運営をおこなうよう努める。
- 5) 2～4年次ゼミナールでは、小規模クラスでのきめ細やかな学修指導をおこなう。さらに、ゼミ担当がクラスアドバイザーを兼務し、学生生活全般にわたる指導・助言をおこなう。
- 6) 経済学部での学修成果を総括するものとして、ゼミ担当教員の指導を受けて3年次末には研究報告書、4年次末には卒業論文の提出を求める。その作成過程をとおして、経済社会への鋭い問題意識と政策提言、専門知識に基づいた論理的文章を作成する能力とプレゼンテーションの技能を磨き、教員やゼミ生同士の議論の中で他者の意見を踏まえながら自己の考えを確立していく修練を積む。また、学部全体でおこなう「卒業研究発表会」は、教員が卒業研究を審査するとともに、学生が互いの研究成果を発表・交流する機会とする。

学修成果の評価

- 1) 各科目の評価は、原則として平常点および期末試験などによる総合評価(100点満点)によりおこなわれる。
- 2) 思考力・判断力・表現力・態度などについては、それぞれの授業科目のなかで必要に応じて達成度指標(ルーブリックなど)を設けて段階的に評価した上で総合評価に加える。
- 3) 専門科目のカリキュラムマップを利用し、取得単位からディプロマ・ポリシーの各項目のスコアを数値化し、学生の到達度を確認する。
- 4) 4年間の学修成果の最終的なまとめとして、卒業論文(必修)の作成・発表を重視し、ディプロマ・ポリシーに適合するか否かについて評価する。

アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

求める学生像

経済学部教育理念は、建学の精神である「敬神愛人」を基盤にしながら、経済の理論と実際を学び、社会で起きているさまざまな現象を読み解く力を涵養し、地域社会やビジネスに貢献できる国際感覚豊かな経済人を育成することである。

そのため、経済学部は、上記の教育理念に共鳴する学生を求め、具体的には、以下のような学生を広く受け入れる。

- 1) 経済社会に興味をもつ者
- 2) 経済学に関する専門知識および幅広い教養の修得に積極的である者
- 3) 主体的に学習して社会に貢献しようとする熱意ある者

入学時までに身につけるべき知識、能力など

- 1) 高等学校の教科に関する基礎的・基本的な知識・技能
- 2) 基礎的・基本的な知識・技能に基づき、経済社会に関する自分の考えをまとめ、他者に伝えるための思考力・判断力・表現力
- 3) 教科の学習にとどまらず、経済社会に関する多様な学習や活動を経験することによる、主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度

入学者選抜

経済学部は、大学入学時までに培われた確かな基礎学力、経済学部への適性、多様な学習や活動を通じて身につけた能力や意欲などを、多面的・総合的に評価することを入学者選抜の基本的な方針としている。

カリキュラムの概要

カリキュラム（教育課程）は、多様な科目群・分野の中のさまざまな授業科目によって構成され、それらすべてを一覧できるリストのことを「授業科目表」（詳細は、P61を参照）といいます。その構成と授業科目表は、カリキュラムの基本ですから、それらをよく理解し、履修登録、受講そして単位修得にのぞんでください。必修科目と表記された科目は、卒業にあたって必ず単位修得しなければならない科目です。経済学科のカリキュラムは、《NGU 教養スタンダード科目》と《専門科目》に大別され、さらに《専門科目》は《学科基幹科目》、《学科展開科目》および《学科関連科目》という3つの科目区分によって構成されます。また、オープン科目として他学部《専門科目》の一部履修を認め、経済学だけに留まらない幅広い専門知識の修得をめざすことができます。カリキュラムの概要を理解することは、学修する上で大切な第一歩です。カリキュラムをよく理解して有意義な学びをスタートさせてください。

- a) 《学科基幹科目》には、経済学を学ぶにあたっての基礎的科目と研究活動をおこなうための基本的手法を身につける科目群が用意されています。経済理論の基礎を修得させる「ミクロ経済学入門」「マクロ経済学入門」（いずれも必修科目）を配置し、教室での講義だけでなく、CCS内の自学自習システムや解説動画の事前視聴を予習に活用した反転授業をおこないます。動画コンテンツは復習にも活用されます。

また、2～4年次には20名前後のクラスによるゼミナール（すべて必修科目）を配置し、小規模クラスでのきめ細やかな学修指導をおこないます（詳細は、P55「演習科目」を参照）。さらに、ゼミ担当教員がクラスアドバイザーを兼務し、学生生活全般にわたる指導・助言をおこないます。

- b) 《学科展開科目》には、経済学のより専門性の高い科目のみならず、政治学や法学を含んだ多様な科目を配置しています。個々の学生は、4つの教育トラックを参考に＜経済理論と情報＞、＜応用経済と経済政策＞、＜各国経

済と歴史>、<法制度と公共政策>の4つの領域から自由に選択できます。教育トラックは、学修とキャリア（出口）との関連を意識させることを意図して設定されています（詳細は、P58「教育トラック」を参照）。また、体系的・系統的な学修を促すため、科目のきめ細やかな学年配当をおこない、教育トラックに沿った科目履修をサポートしています。

- c) 《学科関連科目》には、キャリアと留学に関する科目を配置しています。キャリアについては、「企業研究1・2」のように現場見学をとおして理論と実際との関連づけをおこなう科目や、企業から経済のリアルな姿を学ぶ「企業連携講座」や、課題を見つけ出し改善案を提案していく「企業連携演習」（BIP 科目）、キャリア形成に向けた3年次の実践的な「経済キャリア講座」が配置されています。留学については、数多くの提携大学での留学を前提とした国際理解科目群を配置しています。

外国語科目について、1年生では「基礎英語1・2」および「英会話1・2」が必修科目となっています。2年生では、各自の希望により、次の8つのグループの中からひとつ（2科目2単位分）を選択しますが、卒業要件として必ず単位の修得が求められます。よく考えて科目の選択をしてください。

選択必修語学科目一覧（注意：卒業要件として必ず、同一科目の1・2の履修が必要）

- | | |
|---------------|------------|
| ● 実用英語1・2 | ● フランス語1・2 |
| ● 情報英語1・2 | ● スペイン語1・2 |
| ● TOEIC 英語1・2 | ● 中国語1・2 |
| ● ドイツ語1・2 | ● 韓国語1・2 |

2年次にどの科目を履修するかは、1年次の秋学期にCCSで希望調査をおこないます。教務課よりCCSで連絡がありますので、確認漏れがないよう注意してください。

英語圏への長期留学希望者や、英語のさらなるブラッシュアップを希望する学生は、英語科目（「実用英語1・2」など）の継続的学修が望ましいです。i-Loungeの各種講座をあわせて活用すると、留学のためのTOEFLスコア上昇に効果があります。英語圏以外の人々の考え方や生活文化について知りたい学生は、英語以外の言語の学修にも挑戦してみてください。

カリキュラム上の特色

経済学科では、地域社会で活躍する国際感覚あふれる経済人の養成をコンセプトに、経済学に関する専門知識やそれをめぐる幅広い知識と視野を修得し、現代経済社会におけるさまざまなものごとを見極める力を育てるため、次のような特色ある教育課程（カリキュラム）を編成しています。

a) 基礎科目と専門科目を厳選化

導入教育や基礎教育を重視し、経済に関する専門知識を学修するための基礎づくりとなる科目を厳選し、1・2年次に集中的に配当しています。

b) 経済学に関する専門知識を学修できる教育課程の体系化

経済学の《専門科目》を卒業後のキャリアと結び付けて「グローバル人材（トラックG）」、「ファイナンス（トラックF）」、「DX人材（トラックD）」、「公共政策（トラックP）」の4つの教育トラックに体系化しています。これらの教育トラックに沿えば、将来の自分の目標に近づくための効率的な学修・資格取得ができます。

c) 幅広い知識を養う多彩な関連科目の配置

多様化・複雑化する現代の経済社会におけるさまざまな問題を理解し、解決するためには、経済学の専門知識にとどまらず、それらに関連する法律、政治、行政など、より多彩な知識が必要です。このため、政策関連系や法律系など、多様な分野の多彩な授業科目を配置しています。

d) 社会に役立つ実践的教育の重視

実践性の高い授業科目、および専門的な知識や能力を実際に活用するための授業科目を配置しています。語学演習では実践的能力の養成を重視し、その他、インターンシップや留学を積極的に支援するカリキュラムとなっています。情報教育ではコンピュータ操作だけでなく、プレゼンテーション能力も養成します。演習科目では、自分の意見を表明し、議論できるディベート力を養い、問題解決型思考力を育成します。

経済学部での学修成果を総括するものとして、指導教員のもとで4年次末に卒業論文の提出が求められます。その作成過程をとおして、経済社会への鋭い問題意識と政策提言、専門知識に裏づけされた論理的文章を作成する能力とプレゼンテーションの技能を磨き、教員や学生同士の議論の中で他者の意見を踏まえながら自己の考えを確立していく修練を積むことになります。また、学部全体でおこなう「卒業研究発表会」は、卒業論文のポスターセッション、口頭発表を通して学生が互いの研究成果を発表・交流する貴重な機会です。

経済学部は、学生の課外学修などを促進するために、さまざまな機会や教材を提供し、各科目から吸収された知識や考え方を相互に連携させ、経済社会に対する政策提言に活かせるよう工夫しています。

- 本学が独自に開発した CCS（キャンパスコミュニケーションサービス）等、ICT を最大限に有効活用した教育を実施しています。
- 経済学と深いかわりのある資格として、ERE（経済学検定試験）ミクロ・マクロの受験を奨励しています。
- カリキュラムマップを作成し、取得した単位に基づいてディプロマ・ポリシーに掲げた 10 項目の能力から、みなさんの学修進捗度合いをスコアで示す工夫もおこなっています。

履修順序指定科目

科目によってはシラバスの中で前提科目の履修を求められる場合があります。とりわけ、下表の科目は A→B の順序で履修しなければなりません。

A		B	
授業科目	配当年次	授業科目	配当年次
専門演習	3	卒業研究	4
公共政策演習 1 または 公共政策演習 2	1	公共政策特別演習 1 または 公共政策特別演習 2	2
企業連携演習 1a または 企業連携演習 1b	1	企業連携演習 3a または 企業連携演習 3b	3
企業連携演習 2a または 企業連携演習 2b	2	企業連携演習 3a または 企業連携演習 3b	3

資格単位認定

学生が主体的に学ぶ意欲を評価することに加えて、教育トラックを意識した将来のキャリアと関連の深い資格の取得を目的として、「経済実務 1～3」を配置しています。学部が指定する資格を取得し、定められた基準を満たした場合に、本人の申請にもとづき、「経済実務 1 および 2」として各 2 単位、「経済実務 3」として 4 単位が認定（「R」認定）されます。なお、資格センターではみなさんの学修支援をはかるために、自主的な勉強会・各種資格講座（有料）を学内に開設しています。

1. 単位認定対象となる資格など

認定名	認定する資格・検定名	認定基準	認定名	認定する資格・検定名	認定基準
経済実務 1 または 経済実務 2	秘書技能検定試験	2 級以上	経済実務 3	日本商工会議所簿記検定試験	1 級
	日本商工会議所簿記検定試験	2 級以上		TOEIC Listening&Reading (IP も含む)	740 点以上
	TOEIC Listening&Reading (IP も含む)	540 点～739 点		税理士試験	科目合格
	日本語検定	2 級以上		公認会計士試験	論文合格
	ファイナンシャル・プランニング技能検定	2 級以上		中小企業診断士試験	2 次試験合格
	宅地建物取引士資格試験	資格取得		行政書士試験	資格取得
	一種証券外務員資格	資格取得		ERE（経済学検定試験）または ERE ミクロ・マクロ	A 判定以上
	IT パスポート試験	資格取得			
	ERE（経済学検定試験）または ERE ミクロ・マクロ	B+判定以上			

2. 申請期間

春学期は 6 月、秋学期は 12 月の開講日に申請。

入学前に取得した資格などは、申請を許可しません。申請月以前 3 年以内に取得したものに限りです。

3. 申請期間の特例

最終学年の学生の内、卒業判定の結果、卒業要件を満たさず、資格の単位認定により卒業資格を得られる場合に限り、「2.申請期間」以外に教務課より CCS にて周知される特定の期間において追加申請を受けつけます。

4. 認定

学部において承認された場合、単位を認定します。

5. 成績標語など

単位認定の成績標語は「R」（認定）とします。認定された科目は GPA 算出の対象外となります。

6. 補足事項

認定単位数は、履修制限単位数には含みません。なお、「経済実務 1 および 2」で各種資格の申請は各 1 回とします。

演習科目

1) 演習科目とは

経済学科では、1 年次の「基礎セミナー」、2 年次の「専門基礎演習」、3 年次の「専門演習」、4 年次の「卒業研究」をまとめて演習科目と呼びます。これら科目は、少人数のゼミナール形式の科目であり、みなさんに対して 4 年間のゼミナール教育をおこなうこととなります。指導教員の名前をとって、自分は「○○ゼミ」に所属している、と一般的にいます。

みなさんは学修のそれぞれの段階で、指導教員のもと、自らの関心を広げ、課題を発見し、研究や討論を通じて問題解決しながら、自分の能力の向上に努めてください。また、4年間のゼミナール教育で、人格的な交流をとおして、多くの友人関係が育成されるとともに、指導教員との間のコミュニケーションも密接なものとなります。ゼミナールは4年間の学生生活の中核で、大きな思い出となるものです。

基礎セミナー

1年次配当の「基礎セミナー」は、導入・基礎教育となる必修科目です。授業は少人数でおこなわれ、大学で学ぶ基本的な能力を修得するとともに、2年生以上の演習科目の準備段階となります。「基礎セミナー」では、

- 大学での学修が、高等学校までとどのように違うのか、体験をとおし、実感として理解する。
- 大学生活における自己管理方法および、アカデミックスキルを身につける。
- 本学の歴史および建学の精神を理解し、大学への帰属意識をもつ。

という共通の目標を掲げています。具体的には、以下のような指導がおこなわれます。

- a. 大学での学び方
- b. 文献資料の調査・検索のしかた
- c. レジューメ・レポートの作成のしかた
- d. 報告・発表やディスカッションの工夫

専門基礎演習

2年次配当の「専門基礎演習」は、1年次に身につけた次のような技法を、学問に有機的に結びつけることを目的としています。

- 「日本語表現」で培った日本語能力
- 「デジタル・プレゼンテーション」で修得したプレゼンテーション技術
- 「基礎セミナー」で体験したゼミナールでのディベート手法

特に、3年次以降の研究テーマに沿った学修ならびに「専門演習」の準備として、以下のような5つの力を身につけることをめざします。

- a) 課題を発見する力 b) 自分を表現する力 c) とともに議論する力
- d) 問題を解決する力 e) 実践や行動する力

また、効果的な教育のため、少人数で実践的なトレーニングをおこないます。さまざまな問題について議論し、話し合いながら、社会への関心を深めテーマを見い出す場となります。講義で学んだ専門的な知識も活かしながら、少しずつ主体的な課題認識能力や問題解決能力の向上をはかることができれば、次年度の「専門演習」に取り組む準備ができたといえるでしょう。

専門演習

3年次の「専門演習」では、2年次の「専門基礎演習」での学修をさらに進めて、みなさんが自ら関心をもつ分野について専門的な研究を深めます。指導教員の指導のもとで専門的な文献研究をおこなうだけでなく、キャンパスを出てフィールドワークをおこなうゼミもあります。

また社会人の基本的な姿勢なども3年次のゼミを通じて学びます。コミュニケーション力、文章作成能力、問題解決力などを実践的に身につけます。ゼミ合宿や社会見学・ゼミ旅行などを通じて、ゼミの先輩や後輩といった関係から授業だけでは学べない体験をするゼミもあります。さらに3年終了時には、研究報告書の提出が求められます。

卒業研究

4年次の「卒業研究」は、原則として3年次の「専門演習」と同一の指導教員のもと、3年次までの学修に基づいて研究をさらに進め、自らの関心に沿って研究成果を卒業論文という形でまとめます。4年間の学修の集大成として提出された卒業論文は指導教員から評価されて終わりではありません。卒業論文提出後の卒業研究発表会において、論文の

内容をもとにしたポスターセッションと、口頭によるプレゼンテーションをそれぞれ行い、これらはいずれも経済学部
の全教員によって審査されます。

2) 演習科目の履修にあたって

「専門基礎演習」は、1 年次秋学期に各教員の演習概要をみなさんに提示し、希望調査をおこなって所属を決定しま
す（事前登録）。そして、2 年次春学期に履修登録をすることにより、そのゼミに加入したことになります。この事前
登録の手続をおこなわないと、2 年次春学期からの「専門基礎演習」を履修できません。希望調査時の募集要項をよく
読み、日程などを間違えないよう、確実に手続をおこなってください。

「専門演習」も、2 年次秋学期に各教員の演習概要をみなさんに提示し、希望調査をおこなって所属を決定します（事
前登録）。そして、3 年次春学期に履修登録をすることにより、そのゼミに加入したことになります。この事前登録の
手続をおこなわないと、3 年次春学期からの「専門演習」を履修できません。4 年次春学期からの「卒業研究」は 3 年
次の「専門演習」と同一の教員によるゼミに所属することになりますが、4 年次春学期も「卒業研究」の履修登録を完
了しないと、履修手続が完了しません。確実に手続をおこなってください。

なお、3 年次に「専門演習」を履修するにあたっては、次のことに注意をしてください。

「専門演習」の履修

「専門演習」の所属は、学生への希望調査をもとに成績・面接などによって選抜し決定します。なお、その
履修にあたっては、次の 2 つの要件を満たさなければなりません。

- ① 「基礎セミナー」の単位を修得していること
- ② 2 年次の終了時点で、40 単位以上を修得していること

さらに、3 年次の「専門演習」において研究報告書を提出しないと、4 年次の「卒業研究」を履修できません。4 年次
の「卒業研究」の 8 単位は、通年の授業として 4 単位、卒業論文を 4 単位として換算しています。

「専門基礎演習」は、1 年次配当の「基礎セミナー」とは継続していません。「専門演習」も、2 年次配当の「専門基
礎演習」とは継続していません。「専門基礎演習」や「専門演習」の教員を選択する場合、現在の指導教員と異なる教
員にも必ず目を向けてください。教員の中には、特定の演習科目（例えば、「専門基礎演習」）のみを開講している場合
があります。全教員が、「基礎セミナー」、「専門基礎演習」、「専門演習」、「卒業研究」の 4 つの演習科目をすべて担当
しているとはかぎりません。

3) その他

「基礎セミナー」「専門基礎演習」「専門演習」「卒業研究」のゼミナール制度は、同時にクラスアドバイザー制度（ク
ラス担任制）としても機能します。ゼミの指導教員は、アドバイザーとして所属学生に対して学修上のことはもちろん、
学生生活上の問題についてもきめ細かな指導をおこないます。

BIP プログラム

BIP（Business Innovator Producing）プログラムとは、実際に企業がビジネスの現場で抱えている課題の提供を受け、その
解決策の考案に取り組み、報告して評価を受けるという実践を通じて、企業で必要とされる力を養い、将来ビジネスに革新
をもたらすことができる人材（Business Innovator）を育成するプログラムです。当プログラムは、「企業連携演習 1a」、「企業
連携演習 1b」、「企業連携演習 2a」、「企業連携演習 2b」、「企業連携演習 3a」、「企業連携演習 3b」の 6 つの科目（3 年間、6
セメスター）から構成されます。

1 年次	2 年次	3 年次以上
企業連携演習 1a・1b	企業連携演習 2a・2b	企業連携演習 3a・3b
基本的スキルの習得	より高度な分析スキルの習得	自らの力で実践

※履修順序は経済学部履修規程細則別表 2（P54、諸規程 P200）参照

当プログラムは 1 年次から 3 年次まで、最大で 6 セメスター連続して受講（あわせて 6 企業の課題への取り組みを経験）することができるため、この期間中は常に実践の場が提供されることになります。履修者は常時、実践の場での応用を意識することで、今まで以上に高いモチベーションをもって専門科目の学修に臨めることも当プログラムの特色となっています。

教育トラック

経済学科では、経済学の学びがキャリア形成に役立つように教育トラックを採用しています。自分の希望や卒業後の進路に応じた系統的な学修・留学・資格取得ができるように、4 つの教育トラックを設けています。

教育トラックごとに主な専門科目が明示されており、体系的に専門的な知識やスキルを習得します。実践的な能力まで引き上げるため、関連する資格試験や検定へのチャレンジを支援します。3 年次春学期の「経済キャリア講座」で経済学の学びと学修成果を振り返り、今後の学修計画（卒業研究）やキャリア形成（就職活動）に備えます。

各トラックでは、次のような人材の育成を目的としています。みなさんは 1 年次秋に自分の将来を考え、希望の教育トラックを選択してください。

- トラック G グローバル人材 …… 国際感覚豊かで、グローバルに活躍するビジネスパーソン
- トラック F ファイナンス …… ファイナンスなどの実知的知識をもつ金融・財政のエキスパート
- トラック D DX 人材 …… ICT やデータを駆使し、仕事の効率化ができる即戦力人材
- トラック P 公共政策 …… 各地域において政策立案・施行することができるエキスパート

トラック G. グローバル人材：国際感覚豊かで、グローバルに活躍するビジネスパーソン

私たちは経済のグローバル化が進む国際社会に生きています。とりわけ日本は貿易や資本取引を通じて世界各国と相互依存の関係にあり、日本経済で起こるさまざまな現象は世界経済との関連なしに語ることはできません。

トラック G は、多様な世界経済のあり方に問題意識をもち、国際感覚あふれた人材を養成するために、国際貿易や国際金融の理論・制度について深く学ぶことを推奨します。また、どのような歴史をたどって経済社会がグローバル化してきたのか（時間的視点－経済史）、また世界各国の経済社会はどのように異なるのか（空間的視点－比較経済）という点を理解することも大切です。そして、何より留学体験から国際理解を図ることが重要です。

グローバル企業、一般企業での国際部門、商社、海外に拠点を持つメーカーや企業、国際運輸・物流、旅行代理店などへの就職を考えている人に向いています。将来、広く世界を相手に仕事をしたいと考える人、時代と空間を越えて視野を広げ、経済社会の多様性を学びたい人に最適なトラックです。

このトラックでは、以下のような授業科目を中心に選択し、資格検定や留学を目指すといでしょう。

学科展開科目	ミクロ経済学 1・2、マクロ経済学 1・2、国際経済学 1・2、資源・エネルギー政策、
学科関連科目	金融論 1・2、環境経済学、＜各国経済と歴史＞の領域科目群、国際理解 1～8
経済実務 1～3（資格）	TOEIC Listening&Reading 540 点以上、日本語検定 2 級以上

※「経済実務 1～3」で認定される資格の詳細は、「資格単位認定」項目を参照してください。

トラック F. ファイナンス：実際の知識をもつ金融・財政のエキスパート

ファイナンスとは、企業や個人、政府などの資金調達ならびにその管理を意味します。個人レベルでは年金や保険などを通じた生涯の生活設計や資産運用など、また企業における資金調達や資産運用など、さらに財政政策・金融政策といった政府の政策など、広範な領域にまたがります。

トラック F は、金融や財政の基礎理論とその制度的な枠組みを理解し、金融・財政政策について深く学ぶことを推奨します。また、金融リテラシーを身につけ、将来的に個人の生活設計や金融資産の管理ができる人材を育成します。実際の応用力を養うために、市場の動向やリスク管理などについて「企業連携講座」などで扱います。

銀行・証券会社・保険会社・不動産会社といった金融業界への就職を考えている人に向いています。また、一般企業での会計・財務部門で活躍したい人、パーソナルファイナンスに興味関心がある人に最適なトラックです。

このトラックでは、以下のような授業科目を中心に選択し、資格検定を目指すといよいでしょう。

学科展開科目	ミクロ経済学 1・2、マクロ経済学 1・2、金融論 1・2、財政学 1・2、経済政策論、
学科関連科目	統計学、計量経済学、経済データ分析、社会保障論、経済法、企業連携講座 1・2
経済実務 1～3（資格）	一種証券外務員、ファイナンシャル・プランニング技能検定 2 級以上、 日本商工会議所簿記検定 2 級以上、税理士試験、公認会計士試験

※「経済実務 1～3」で認定される資格の詳細は、「資格単位認定」項目を参照してください。

トラック D. DX 人材：ICT やデータを駆使し、仕事の効率化ができる即戦力人材

新型コロナのパンデミック以降、テレワークやオンライン会議などが定着し、ICT を駆使できる人材が求められています。また、経済活動に関するデータ量は飛躍的に増加し、分析ツールであるデータサイエンスのニーズも高まっています。どの分野でも、ICT 活用やデータ分析から従来の活動を見直すという DX（Digital Transformation）が注目されています。

トラック D は、経済関連データの背景を理解し、適切なデータ収集から相関関係・因果関係を分析する統計方法について深く学ぶことを推奨します。自分で分析した計算結果を見て、経済学の知識に基づく合理的な判断ができる人材を育成します。また、技術革新による経済発展を理解し、実際のビジネスでも新しいツールで業務革新の可能性を探る姿勢を身につけます。

IT 専門職として情報サービス業、大企業の IT 部門で活躍したい人に向いています。また、一般企業で販売・製造部門などでも情報活用による業務改善、収益向上に寄与したい人に最適なトラックです。

このトラックでは、以下のような授業科目を中心に選択し、資格検定を目指すといよいでしょう。

学科展開科目	ミクロ経済学 1・2、マクロ経済学 1・2、統計学、計量経済学、経済データ分析、
学科関連科目	経済数学、日本経済論、企業連携講座 1・2、企業連携演習 1a～3b
経済実務 1～3（資格）	IT パスポート資格取得、日本商工会議所簿記検定 2 級以上、 秘書技能検定 2 級以上、中小企業診断士試験

※「経済実務 1～3」で認定される資格の詳細は、「資格単位認定」項目を参照してください。

トラック P. 公共政策：各地域において政策立案・施行することができるエキスパート

価値観の多様化が進み、世代や地域でも大きく異なっています。地域経済にとって大切で必要なものを見極めること、またそれに応じた政策立案をすることは簡単ではありません。

トラック P は、市場経済の有効性と限界を理解したうえで、公的部門の役割について深く学ぶことを推奨します。また、現実の課題に対応するためには、経済学だけではなく、法律や政治の視点が重要になりますので、学科展開科目の＜法制

度と公共政策＞の領域にある科目の履修を推奨します。国や地域での課題を発見し、経済学的アプローチから解決への提案ができる人材の育成を目指します。

行政職の国家・地方公務員、公益事業や公共団体などへの就職を考えている人に向いています。将来、地域が抱える課題を発見し、経済政策の立案などを学びます。地域に貢献する仕事や社会活動に携わりたい人に最適なトラックです。

このトラックでは、以下のような授業科目を中心に選択し、資格検定を目指すといでしょう。

学科展開科目 学科関連科目	ミクロ経済学 1・2、マクロ経済学 1・2、財政学 1・2、経済政策論、公共経済学、社会保障論、＜法制度と公共政策＞の領域科目群
経済実務 1～3（資格）	宅地建物取引士資格取得、行政書士資格取得、ERE（経済学検定試験）または ERE ミクロ・マクロ B+判定以上

※「経済実務 1～3」で認定される資格の詳細は、「資格単位認定」項目を参照してください。

卒業要件

卒業要件単位数

経済学部授業科目表（次頁以降参照）にもとづいて必要な単位数（124 単位）以上を修得しなければなりません。それぞれの単位数には必修科目を含みます。区分ごとの要件をよく確認し、4 年間の履修計画をしっかりと立ててください。

NGU教養 スタンダード 科目	キリスト教	34単位以上 （必修・選択必修16単位を含む）
	自己理解と自己開発	
	数理・データサイエンス・AI教育	
	言語とコミュニケーション ※1	
	歴史・文化の理解、社会の理解、 自然・人間・生命の理解、地域の理解	
学科基幹科目 （必修）		20単位
学科基幹科目 （基礎）		60単位以上
学科展開科目	経済理論と情報、応用経済と経済政策、 各国経済と歴史、法制度と公共政策	
学科関連科目	キャリア、留学	
自由選択(フリーゾーン) ※2		10単位以上
合計		124単位以上

[注記]

※1 第2語学2単位分の選択必修あり。

※2 科目区分を問わず、自由に選択できる。

経済学科 NGU教養スタンダード科目

授業科目名	単位数		配当 年次	ナンバ リング
	必修	選択		
キリスト教				
キリスト教概説1	2		1	AC1101
キリスト教概説2	2		1	AC1102
聖書学		2	2	AC2301
キリスト教倫理		2	2	AC2302
キリスト教史		2	1	AC1301
自己理解と自己開発				
基礎セミナー	2		1	AU1101
発展セミナー		2	1	AU1301
キャリアデザイン1a		2	1	AU1302
キャリアデザイン1b		2	1	AU1303
キャリアデザイン2a		2	2	AU2301
キャリアデザイン2b		2	2	AU2302
ボランティア学		2	1	AU1304
ボランティア演習		2	1	AU1305
インターンシップ1		2	1	AU1306
インターンシップ2		2	1	AU1307
数理・データサイエンス・AI教育				
情報処理リテラシー	2		1	AI1101
データサイエンスリテラシー		2	1	AI1301
データサイエンス概論		2	2	AI2301
AI概論		2	2	AI2302
情報処理論		2	2	AI2303
言語とコミュニケーション				
日本語表現	2		1	AV1101
実用日本語表現法		2	1	AV1301
アカデミック日本語表現法		2	2	AV2301
基礎英語1	1		1	AV1102
基礎英語2	1		1	AV1103
英会話1	1		1	AV1104
英会話2	1		1	AV1105
実用英語1		1	2	AV2201
実用英語2		1	2	AV2202
情報英語1		1	2	AV2203
情報英語2		1	2	AV2204
TOEIC英語1		1	2	AV2205
TOEIC英語2		1	2	AV2206
ドイツ語1		1	2	AV2207
ドイツ語2		1	2	AV2208
フランス語1		1	2	AV2209
フランス語2		1	2	AV2210
スペイン語1		1	2	AV2211
スペイン語2		1	2	AV2212
中国語1		1	2	AV2213
中国語2		1	2	AV2214
韓国語1		1	2	AV2215
韓国語2		1	2	AV2216
歴史・文化の理解				
【教養】日本史		2	1	AW1301
【教養】世界史		2	1	AW1302
【教養】日本文学		2	1	AW1303
【教養】外国文化論		2	1	AW1304
【教養】文化人類学		2	1	AW1305
【教養】陶芸論		2	1	AW1306
【教養】陶芸演習		2	1	AW1307

授業科目	単位数		配当 年次	ナンバ リング
	必修	選択		
社会の理解				
【教養】政治学		2	1	AO1301
【教養】国際政治学		2	1	AO1302
【教養】国際関係論		2	1	AO1303
【教養】平和学		2	1	AO1304
【教養】法学		2	1	AO1305
【教養】日本国憲法		2	1	AO1306
【教養】経営学		2	1	AO1307
【教養】社会学		2	1	AO1308
【教養】教育学		2	1	AO1309
自然・人間・生命の理解				
【教養】哲学		2	1	AN1301
【教養】心理学		2	1	AN1302
【教養】数学		2	1	AN1303
【教養】物理学		2	1	AN1304
【教養】化学		2	1	AN1305
【教養】地学		2	1	AN1306
【教養】生物学		2	1	AN1307
【教養】環境学		2	1	AN1308
【教養】スポーツ健康科学		2	1	AN1309
【教養】スポーツ初級a		1	1	AN1310
【教養】スポーツ初級b		1	1	AN1311
【教養】スポーツ中級a		1	2	AN2301
【教養】スポーツ中級b		1	2	AN2302
地域の理解				
まちづくり学		2	1	AR1301
まちづくり演習		2	1	AR1302
上級まちづくり演習		2	2	AR2301

経済学科 専門科目

授業科目名		単位数		配当 年次	ナンバ リング
		必修	選択		
学科基幹科目	必修				
	ミクロ経済学入門	2		1	EK1101
	マクロ経済学入門	2		1	EK1102
	専門基礎演習	4		2	EK2101
	専門演習	4		3	EK3101
	卒業研究	8		4	EK4101
	基礎				
	統計学入門		2	1	EK1301
	経済史入門		2	1	EK1302
	日本経済入門		2	1	EK1303
	財政学入門		2	2	EK2301
	金融論入門		2	2	EK2302
	国際経済学入門		2	2	EK2303
	デジタル・プレゼンテーション		2	1	EK1304
	データ表現技法		2	1	EK1305
	アカデミックスキルズ		2	3	EK3301
	経済キャリア講座		2	3	EK3302
学科展開科目	経済理論と情報				
	統計学		2	2	EK2304
	経済数学		2	2	EK2305
	ミクロ経済学1		2	2	EK2306
	ミクロ経済学2		2	2	EK2307
	マクロ経済学1		2	2	EK2308
	マクロ経済学2		2	2	EK2309
	計量経済学		2	2	EK2310
	経済データ分析		2	2	EK2311
	社会経済学		2	2	EK2312
	現代経済学		2	2	EK2313
	経済学特殊講義		2	1	EK1306
	応用経済と経済政策				
	財政学1		2	2	EK2314
	財政学2		2	3	EK3303
	公共経済学		2	3	EK3304
	金融論1		2	2	EK2315
	金融論2		2	3	EK3305
	国際経済学1		2	2	EK2316
	国際経済学2		2	3	EK3306
	経済政策論		2	2	EK2317
	産業組織論		2	3	EK3307
	労働経済学		2	2	EK2318
	社会保障論		2	3	EK3308
	資源経済学		2	2	EK2319
	資源・エネルギー政策		2	3	EK3309
	環境経済学		2	2	EK2320
	エコロジー経済論		2	3	EK3310
	各国経済と歴史				
	経済史1		2	2	EK2321
	経済史2		2	2	EK2322
	外国経済論1		2	2	EK2323
	外国経済論2		2	3	EK3311
現代日本経済史		2	2	EK2324	
日本経済論		2	2	EK2325	
開発経済学		2	3	EK3312	
外書講読		2	2	EK2326	
経済英語		2	2	EK2327	

授業科目名		単位数		配当年次	ナンバリング
		必修	選択		
学科展開科目	法制度と公共政策				
	法学概論		2	2	EK2328
	憲法概論		2	2	EK2329
	民法		2	2	EK2330
	会社法		2	3	EK3313
	経済法		2	2	EK2331
	行政法		2	2	EK2332
	行政学		2	2	EK2333
	政治学		2	2	EK2334
	公共政策演習1		2	1	EK1307
	公共政策演習2		2	1	EK1308
公共政策特別演習1		2	2	EK2335	
公共政策特別演習2		2	2	EK2336	
学科関連科目	キャリア				
	企業連携演習1a		2	1	EK1309
	企業連携演習1b		2	1	EK1310
	企業連携演習2a		2	2	EK2337
	企業連携演習2b		2	2	EK2338
	企業連携演習3a		2	3	EK3314
	企業連携演習3b		2	3	EK3315
	企業連携講座1		2	1	EK1311
	企業連携講座2		2	2	EK2339
	企業研究1		2	2	EK2340
	企業研究2		2	2	EK2341
	経済プロジェクト演習		2	2	EK2342
	経済実務1		2	1	EK1312
	経済実務2		2	1	EK1313
	経済実務3		4	1	EK1314
	留学				
	国際理解1		4	1	EK1315
	国際理解2		4	1	EK1316
	国際理解3		4	1	EK1317
	国際理解4		4	1	EK1318
国際理解5		2	1	EK1319	
国際理解6		2	1	EK1320	
国際理解7		2	1	EK1321	
国際理解8		2	1	EK1322	

選択必修科目

8分野から1分野を選択し、1と2を履修しなければなりません。

実用英語1・2	フランス語1・2
情報英語1・2	スペイン語1・2
TOEIC英語1・2	中国語1・2
ドイツ語1・2	韓国語1・2